



令和6年長崎平和宣言（骨子）について

令和6年長崎平和宣言（骨子）

1 宣言文の起草にあたって

ウクライナ侵攻及び中東情勢において悲惨な状況が続く中、79年間もの間、人類が守り抜いてきた「核兵器を使ってはならない」という人道上の規範をこれからも守り続けることができるのか、被爆地は非常に強い危機感を抱いていることを表明し、核保有国と核の傘の下にいる国に対し核兵器廃絶に向け大きく舵を切るよう求めるとともに、市民社会に向けては、「地球市民」として行動を起こすよう呼びかけるもの。

令和6年長崎平和宣言（骨子）

2 平和宣言の骨子

- 被爆者（福田須磨子氏）の詩を用いた、被爆の惨状と被爆者の訴え
- 昨今の核兵器をめぐる国際情勢の中、「核兵器を使ってはならない」という人道上の規範が大きく揺らいでいることへの危機感の表明
- 核保有国と核の傘の下にいる国に対し、各国指導者の被爆地訪問を呼びかけるとともに、核兵器廃絶に向け舵を切り、外交努力により平和的な解決への道を探るよう要請

令和6年長崎平和宣言（骨子）

2 平和宣言の骨子

- 日本政府に対し、核兵器禁止条約への署名・批准及び憲法の平和理念の堅持の訴え、北東アジア地域の緊張緩和と軍縮に向けたリーダーシップの要請、被爆者援護の充実と被爆体験者救済の要請
- 地球市民として、様々な違いを超えてつながり合えば、思い描く未来を実現することができるとの市民社会への呼びかけ
- 原爆犠牲者への追悼と、核兵器廃絶への決意表明

令和6年長崎平和宣言（骨子）

3 平和宣言の発信

- 平和宣言は、英語、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語、オランダ語、アラビア語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語の10か国語に翻訳して、長崎市ホームページに掲載
- 式典の様子は同ホームページにてインターネット配信（日本語、英語）を行い、広く世界に発信